

世羅台地の自然

世羅台地は、広島県の中東部に位置する標高350m～450mのゆるやかな高地です。日本海へ流れる江の川と瀬戸内海へ流れる芦田川との源流の地で、中国山地の分水嶺となっています。豊かな自然の残る湿地やため池が数多くあり、「日本の重要湿地500」（環境省）に選ばれています。

また、備後国大田庄として古くから稲作が行われており、草刈りや山林の手入れといった人々の暮らしによって「里」という多様な生きものも暮らす農村環境が育まれてきました。

しかし近年は、開発や私たちの暮らしの変化によって「里」の環境は減少し、絶滅の心配される生きものが数多くいます。



天然の湿原(世羅台地)



畦の草刈り

自然観察園とは

「自然観察園」は、世羅台地で見られる多様な動植物を保全し、その観察や育成活動を通じて、自然のなりたちや生きもの不思議を学ぶことができる自然学習フィールドです。

世羅台地で見られる多くの動植物が生育・生息できる環境づくりに取り組み、人と自然を大切にすることを育むことを目的としています。

世羅の自然を守り、育てる、学びの場。

交通のご案内



交通のご案内

- 世羅ICから国道184号経由15分
- 吉舎ICから国道184号経由20分
- 河内IC・広島空港からフライトロード経由30分
- 中国バス甲山営業所からタクシーで15分



観察会の様子

お問い合わせ先

せら夢公園管理センター

〒722-1732 広島県世羅郡世羅町黒淵411-13

TEL 0847-25-4400

ホームページ <http://sera.winery.jp/nof/>

2015.03.改訂 5,000



ニホンヒキガエル

せら夢公園



サギソウ

ハッチョウトンボ

自然観察園



オグラコウホネ

世羅台地で見られる生きものたち。

ため池

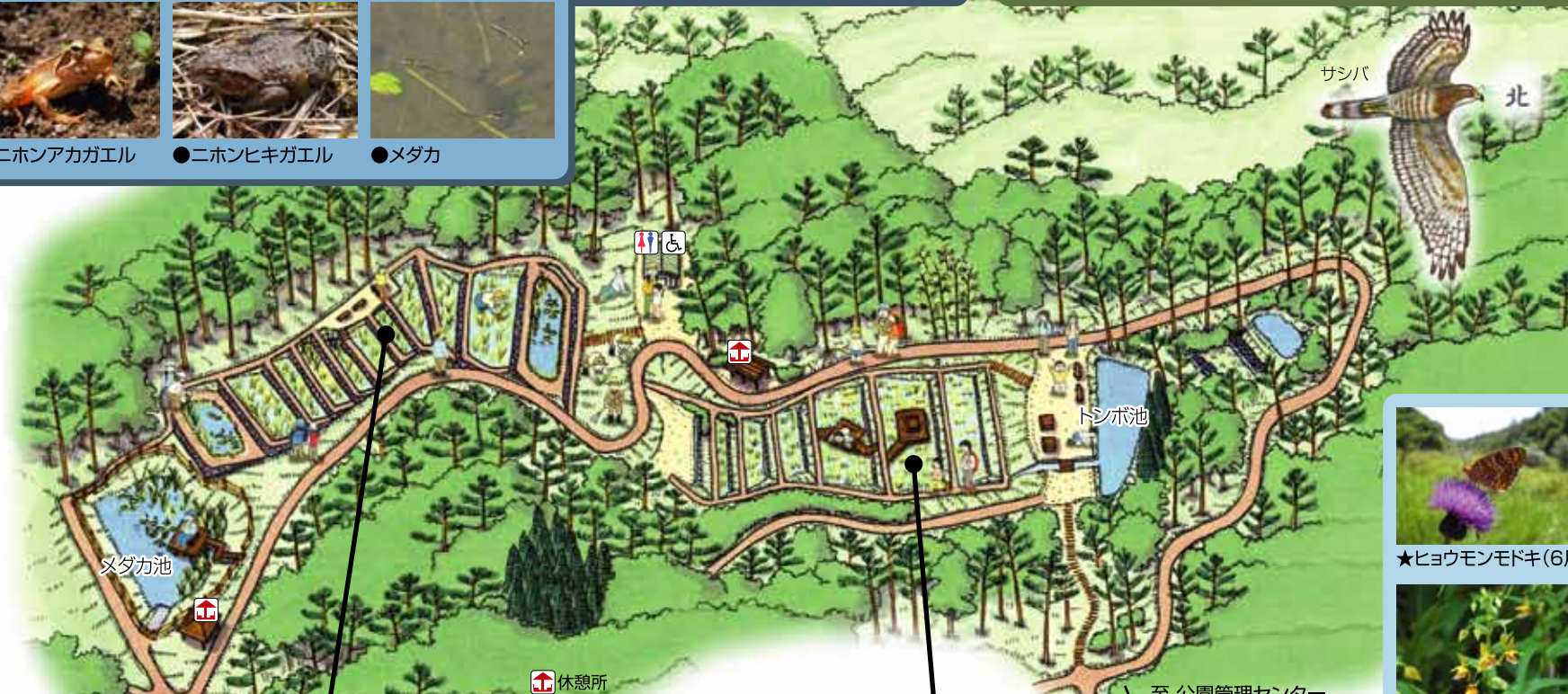
田んぼの水源として、古くから人々はため池をつくって利用してきました。ため池は多くの生きものが成育場所や繁殖場所として利用しており、世羅台地の自然を特徴づけています。園内には5つのため池がありますが、水深に変化を持たせ、また山とのつながりを確保することで、多様な動植物が生育・生息できるようにしています。



●オグラコウホネ(花7月) ●コウホネ(花7月) ●ヒメコウホネ(花7月) ●ヤマトミクリ(花7月) ●イトモ



●ニホンアカガエル ●ニホンヒキガエル ●メダカ



樹林地・畦(あぜ)

古くから人々は生活に必要な燃料や肥料、牛馬の飼料として山林や畦畔から薪や落ち葉、刈草を採取し利用してきました。こうした人々の営みが、明るい林床や草地を維持し、多様な動植物を育ててきました。園内でも定期的に草刈りなどを行っています。



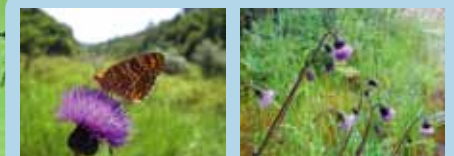
●ノアザミ(花6月) ●キシツツジ(花5月) ●キキョウ(花8月) ●ワレモコウ(花9月)
★ゴマシジミ(9月)



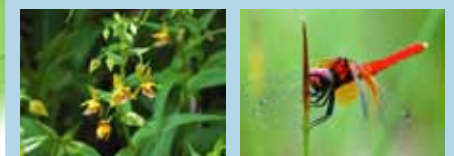
●コバノミツバツツジ(花4月)



●カブトムシ(7月)



★ヒョウモンモドキ(6月) ●キセルアザミ(花9月)



●カキラン(花6月) ●ハッチョウトンボ(7月)

湿生花園・田んぼ観察園

田んぼには多くの生きものが暮らしています。昔の田んぼは「ひよせ」と呼ばれる小さな水路に冬場も水がたまっており、水生昆虫の越冬場所、カエルやカスミサンショウウオの産卵場所となっていました。ここでは、様々な田んぼの生きものや、湿生植物の美しさを楽しむ環境づくりを目指しています。



●ノハナショウブ(花7月) ●サワギキョウ(花9月) ●サクラバハノキ ●カスミサンショウウオ

湿地(湿原)

世羅台地の湿地は、貧栄養な水がしみ出ている浅い谷間の緩やかな傾斜地に広がっています。サギソウやモウセンゴケなど特有の植生が発達し、絶滅が心配される“湿地の蝶”ヒョウモンモドキも生育しています。園内の湿地植生は、世羅台地内の消えつつある湿地から少量ずつ移植してきたもので、多様な湿地の動植物を保全・育成することを目指しています。



●サギソウ(花8月) ●モウセンゴケ(花7月) ●ムラサキミカグサ(花9月) ●ホザキノミカグサ(花9月) ●ミミカグサ(花9月)

●:園内で生育・生息が確認されている生きもの。 ★:将来的に園内での生育・生息を目指す生きもの。